

2015(平成27)年、創立77周年を迎え 事業力、人財力、グローバル力 ブランド力を強化していきます

平成27年(2015)年、今年の2月11日、日東精工は創立77周年を迎えます。

77は人間の歳でいえば「喜寿」にあたります。当社の事業活動が本年も順調に伸長し、顧客のみなさま、投資家のみなさまをはじめ、地域社会の方々、社員並びに関係者それぞれに、大きな実りと喜びがもたらされることを願います。

新中期経営計画 「日東パワーアッププランFINAL」

昨年のわが国の経済は、政府の経済対策・金融政策により、企業収益や雇用情勢に改善がみられるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、消費税増税の影響による個人消費・生産動向の低迷、新興国の経済の減速などの景気下振れリスクが懸念され、予断を許さない経営環境が続くものと予想されます。

当社では新中期経営計画「日東パワーアッププランFINAL」を策定しています。これは、これまでの「日東パワーアッププランⅠ・Ⅱ」を継承し、3年後、平成30年に「締結・組立・計測検査における

真のグローバルメーカー」となるための最終ステージ(FINAL STAGE)と位置付けるものです。経営ビジョンは「締結・組立・計測検査分野における飛躍的成長への挑戦」であり、基本方針は「強み(日東らしさ)を活かして 事業領域の拡充に挑戦する」こと。戦略テーマは、①事業力の強化 ②人財力の強化 ③グローバル力の強化 ④ブランド力の強化です。

そして常に顧客満足度120%をめざします。真の「おもてなし」は、単にいてねいな対応といったレベルではありません。お客様の目線の先を読み、求められる前に対応できること。製品機能でいえば、見た目もよく使い勝手のよいことでしょう。かなり込み入った仕事を、各工程ともに、それぞれの担当者が次工程のことを考えて、きちんとこなして仕上げるサービスやシステムです。品質の文化を築くことが、お客様の心の中に占めるマインドシェアを高めていくことになります。評判が市場をつくることを肝に銘じて仕事を進めてまいります。



日東精工株式会社
代表取締役社長
材木正己

当社では今後毎月「ニュースレター」を発行し、事業内容やトピックスを紹介して「発信力」を高めていきます。

ホームページ <http://www.nittoseiko.co.jp> もご参照ください。

5本の矢を実践しよう

お客様笑顔まで繋いでいこう
高い品質意識で

●本年度は、この五本の矢をもって「構え、撃て、そして狙う」の順に進め、見逃しの三振をしないことを最優先課題とします。構えて狙ってから撃つのではなく、まずやってみる。思い通りの結果がでなければ修正して狙うという気概で進めてまいります。

1 量が高めることを肝に銘じる ～売上目標の必達が品質を高める

「手堅く」という言葉を誤解して、縮小均衡を図ろうとすると、将来の芽ともなる投資までを圧縮してしまう可能性があります。明日を担う新製品などの開発費や研究費をけずり、人財力を高める労務費予算、その他各種予算なども委縮の傾向になり、成長性にブレーキをかけかねません。こういった投資を支える原資は、売上目標達成による収益の確保です。売上の拡大こそが質を高めることを強く認識し、既存のお客様グループ、系列の深耕、新規開拓の積極化を図っていきます。

2 わかりやすさの徹底 ～難しい内容をやさしく表現する

「わかりやすさ」も品質の大きな構成要素。製品や商品の操作、扱いやすさも品質です。取扱い説明書の表現や、説明の仕方も品質を左右します。仕事の指示・連絡も、明快な、わかりやすさがないと不良が発生しやすいものです。各人が高度な内容をわかりやすく説明できるプロになります。

3 隠れた可能性を活用 ～掌中のイノベーションから始める

早すぎるという判断で採用しなかった過去の企画や、現状の手順の中にも成長の芽があります。たとえば、強いものを更に強くする「重点化」にオチがないか。工期短縮でコストダウンができないか。設備投資の稼働率にロスはないか。こういった「掌中のイノベーション」に目を向け、低コストで品質を高める努力も怠りません。

4 美意識を行動に投入する ～恥を知る資質が品位を高める

職場にゴミが落ちていても拾わないのは恥ずかしいことです。メールやレポートなど、誤字脱字があっては恥ずかしいです。自分の足跡を振りかえり、自己評価してみて成長していないようでは恥ずかしいです。「まあ、いいか」と甘い判断で詰めをしないのも恥ずかしいものです。恥ずかしいという気持ちを失わず「より良いもの」という美意識をもって行動し、自分の資質、品質を高めていきます。

5 評判をマネジメントする ～市場会話力を強化する

お客様との関係を始め、仕入先との関係、あるいは地域との関係など、その絆を強くしていきます。株式市場だけでなく、ネット社会を含めた広い分野に対して、等身大の日東精工を発信。「納期が早い」「対応が早い」「誠実で几帳面」「こちらのニーズを満たしてくれる」等々、評判が評判を呼び、評判が企業価値を高めてくれます。製造、営業の組織体制を支えるために、この評判をマネジメント。そのためにパブリシティ展開の仕組みを構築していきます。ニュースレターなどの評判の種まきに「話題づくり」も用意して市場会話力を強化していきます。

Jキャストニュースに「日東精工ねじコーナー」が開設

書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』が話題になったこともあり、当社への取材依頼が増えています。NHKの「ラジオ深夜便」で材木正己社長が約40分のロングインタビューを受けたのを始め、テレビや新聞雑誌などにも大きく紹介されました。2015年も、たとえば、みずほ総合研究所発行の会員誌「Fole」などの露出が決定しています。また、JCASTはYahooやMSNなどにニュースを配信する波及力の大きなWEBサイトですが、ここに2015年1月から当社の「ねじ」コーナーを開設しました。今後、ここからも等身大の日東精工を発信していく予定です。 <http://blog.j-cast.jp/nittoseiko/>

新価値創造展で 軽量化に貢献するねじをアピール

2014年11月19日(水)～21日(金)、東京ビッグサイトで開催された「新価値創造展2014」の特別展示スペース「スマートファクトリーを創る」に当社工業用ファスナー(ねじ)を出展しました。この展示会は独立行政法人、中小企業基盤整備機構が主催するもので、当社は一般出展社枠ではない形で、〈軽量化に貢献するねじ〉の特別展示を行いました。

たとえば「**エスタルファ®Z**」は鉄の約1/3の重量であるアルミ材を使用した高硬度アルミ製タッピングねじ。アルミ材・マグネシウム材・樹脂材へのセルフタップを実現させ軽量化に貢献するねじです。そのほか「**CFタイト®**」や「**タップタイト®2000+フリックス™009**」なども出展。当社の高い技術力が、自動車関係をはじめ、多くの業界の軽量化やトータルコストダウン、環境負荷の軽減に大きく貢献していることをアピールしました。

なお、2015年1月14日～16日まで東京ビッグサイトで開催される「第1回ウェアラブルEXPOー装着型デバイス技術展ー」には、当社の極小ねじ、精密ねじをはじめ、卓上ねじ締めロボット、多機能型マイクロバブル洗浄装置などを出展予定です。

エスタルファZ

特殊ねじ山形状と硬質アルマイト処理により、ねじ山潰れなくアルミ合金へのセルフタッピングを可能にしたアルミ製ねじです。

アルミの比重は鉄に対して約1/3であるため、商品の軽量化に貢献します。また、アルミ部材に同一材質のアルミ製ねじを使用することで、耐食性が向上します。ねじを取り外すことなく、リサイクル処理を行うことが可能で、解体費用の削減や作業効率の向上にも貢献します。



児童書のポプラ社と「絆」をテーマに 地域の子供たちに夢を与える

ねじはモノとモノをつなげるもの、絵本は親と子供をつなげるもの。書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』発行でつながりのできた老舗出版社・ポプラ社と連携して、2014年11月1日(土)に「絆」をテーマにした絵本の読み聞かせ会を当社体育館で開催しました。累計4000万部を超えるシリーズの人気者「かいけつゾロリ」がスペシャルゲストで登場。また当社体育館でのイベントに先立ち、綾部市図書館でも、形を変えたミニ読み聞かせ会を開催、人気者の「かいけつゾロリ」には地元の高倉書店、あやべ特産館などにも立ち寄ってもらい撮影会も実施。たくさんの子供たちに夢を与えることができました。



ゾロリ、ねじの魅力に開眼する!?

地球環境への取り組みが評価され 優良事業者として京都市から表彰

京都市地球温暖化対策条例による事業者排出量削減計画制度に基づき、当社でも温室ガス排出削減に恒常的に、積極的に取り組んでいますが、第一計画期間(平成23～25年度)における削減が、京都市の設定した目標率を2倍以上、大きく上回ったことが高く評価され(S、A、B、C、Dの5段階の評価中最高のS)、優良事業者として表彰されることになりました。今後も当社では次世代への良い環境づくりに貢献していきます。



今年の干支「未(ひつじ)」から 2つの大切な意味を学ぼう



宮中で開かれる吉例の「歌会始め」。今年の勅題は「本」でした。

「本」という漢字は「根」を表す象形文字です。横への一直線を大地と見立てれば、じつはしっかりと根を下ろした形が見えてきます。

「本」という文字だけをばつと見て「書籍」「BOOK」のイメージにこだわりすぎると、展開が広がりません。ふだん、当たり前だと思っていること、これはこうだと思いついでいる身近なものを、ときにはじっくり観察、見直し、再度点検してみましよう。

気づかずにいた大切なもの、本質が見えてくるかもしれません、新しい価値が見いだせるかもしれません。



「人生の「ねじ」を巻く77の教え」(ポプラ社)は当社オリジナル教則本を一般向けに再編集したものを書籍に掲載していないものや重複しても更新していくべきものなどを随時ここでご紹介していきます。

そして今年の干支は「未(ひつじ)」です。この漢字もよく見てください。

「木」の上に小さな「一」が乗っています。この「一」はこれから大きく成長していく小枝です。

「未」は未来の未でもありませんから、未来に向けて未知なるものを探求、新しい価値を見つけようとするといえるでしょう。

あるいは思いがけない事態が起きても、慌てないで済むように、イフプランを用意しておけば未然に防ぐことができる、受け止めることもできるでしょう。

2015年、ひつじ年の今年が未来に向けて成長する一年、トランプルのない順調な一年となるように心がけていきましょう。

(経営コンサルタント 蒲田春樹)



ねじのある街・あやべの魅力

女子教育の礎を築いた、 美智子皇后の恩師でもある 綾女出身の吉川茂仁香さん

日東精工の本校は京都の北部、綾部にあります。この綾部ゆかりの人物を紹介しましょう。

綾部高校(当時は綾部高等女学校)出身のカトリックの修道女に吉川茂仁香さんがいます。名前だけでは「誰?」と思われるかもしれませんが、20年以上務めた方で、教え子には作家の曾野綾子さん、あるいは元国連高等弁務官の緒方貞子さんなどがいます。そして、何よりも美智子皇后陛下の恩師にあたり、御成婚前、ご婚約前にマスコミが美智子さまをマークしたときには、修道院に匿われたというエピソードも残っているのです。

茂仁香はモニカと読みますが、これは洗礼名ではなく本名で、1906年当時としてはずいぶんハイクラなお名前です。彼女の父方さん、五六さんが敬虔なカトリック信徒だったようで、子供たちに真手雄(マテオ)、猛生(モーゼ)、

巖(ペトロ)、保路(ポーロ)などと命名しています。

吉川茂仁香さんは東京の聖心だけでもなく、静岡と札幌での学校創立にも携わり、いわば日本の女子ミッション教育の礎を築いたひとりともいえるでしょう。

昨年は当社日東精工の「人材教育」「絆経営」について、多くのメディアで高い評価をいただきましたが、綾部の街には、もともと「教え教わる」「伝えつなげる」ことを大切にするDNAがあるのかもしれません。

吉川茂仁香さんは医者であった吉川五六の3女として生まれる(8人兄妹)。吉川家の敷地に「カトリック綾部教会」が建っている。残念ながら教区合併で2015年2月には教会は閉鎖される予定。

